

2017年度 自己点検・評価【総合政策研究科】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	総合政策研究科委員長	作成部局	総合政策研究科
-----	------------	------	---------

【A票：教育研究目標1】

(タイトル)

多様な分野の知識に基づく高度な政策分析力の獲得

(狙い内容)

多様な分野の知識に基づく文献、資料の読解力を高めると同時に、データ分析能力を高める。そして、各種の政策課題において必要な情報を抽出するとともに、将来を予測し、さらにその不確実性をも評価したうえでの確かな政策判断を行うための能力を形成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

新カリキュラムを履修した修了生全員が、それぞれ必要とする専門的な知識と政策分析力を獲得している。

2. 達成度評価

評価指標	・カリキュラム改訂の有無 ・課題研究「リサーチ・プロジェクト」の履修・運営方法の変更、適切な科目名への改称	評価尺度	A：行動計画①②がともにAに達したレベル B：行動計画①②がともにBに達したレベル C：行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D：行動計画の未着手
------	--	------	---

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		C 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入った	B 行動計画①②がともにBに達した	A	A	A	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	C	B	実績 A				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	行動計画①②がともに具体的な検討段階に入った	行動計画①②がともにBに達した		行動計画①②がともにAに達した。			

【2017年度の進捗状況について】

カリキュラム改訂を実施した。
課題研究「リサーチ・プロジェクト」の履修・運営方法の変更、適切な科目名への改称を実施した。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標に向かって順調に進捗しており、今後の進展が期待されます。(A)
- ・ 行動計画の具体的な取り組みが読み取れません。(C)
- ・ 概ね順調に進展しています。
- ・ 教育研究目標1の指標として、カリキュラム改訂も1つの指標となりえますが、それ以外の指標を設けられることも期待されます。
- ・ 教育研究目標2は、専門的技術の獲得なので、履修者数以外の指標も視野に入れることが期待されます。(D)
- ・ 行動計画①②とも「A」を達成しているようですので、より高次の目標や目標値の設定が望まれます。(E)
- ・ 【2017年度の進捗状況について】欄の記載は「解消」ではなく「改称」でしょうか。(F)
- ・ 新たな行動計画の策定が望まれます。(G)
- ・ 計画通りに順調に進捗していると評価できます。(H)
- ・ 行動計画はどちらも達成されており、次の教育研究目標への発展が期待されます。(I)
- ・ 当初の目標どおり、カリキュラム改訂が完了し、リサーチプロジェクトの履修・運営方法が変更されたとあります。研究科として、今後学生が専門的な知識と政策分析力を獲得するために更にどのような取組みを進めていくのか、是非検討を進めていただくことを期待します。(J)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)
実務上の専門的技術の獲得

(狙い内容)
総合政策研究科は、高度専門職業人の養成のためのプログラムを用意する。そのために必須となる各専門分野に関して、十分なレベルの知識と技術を提供し、卒業生が実社会で即活躍ができるような教育を実施する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

「国連・外交コース」および「建築士受験資格大学院実務経験プログラム」の修了生が、実社会の国際分野、建築分野において即活躍できる

2. 達成度評価

評価指標	・「国連・外交コース」履修者数 ・「建築士受験資格大学院実務経験プログラム」履修者数	評価尺度	A：行動計画①②がともにAに達したレベル B：行動計画①②がともにBに達したレベル C：行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D：行動計画の未着手
-------------	---	-------------	---

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 行動計画①は未着手	C 行動計画①も着手した	C	C	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	C	見込み	B			
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	行動計画①は未着手	行動計画①も着手した		行動計画①はBレ ベルを、②はAレ ベルを実現した			

【2017年度の進捗状況について】

①は履修者2名を出し、Bレベルを実現した。②は履修者が累計17名となり、Aレベルに達した。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標に向かって順調に進捗しており、今後の進展が期待されます。(A)
- ・ 計画は順調に進展しています。(C)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 順調に推移しており、評価できます。(E)
- ・ 建築士受験資格を取る学生が多いようですが、そういった学生はどのような分野で活躍する人材が多いのでしょうか？総合政策研究科において研究する内容に、この資格が活かされる分野で活躍する学生の輩出が期待されます。(F)
- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(G)
- ・ 目標に向けて順調に進捗しています。(H)
- ・ 「国連・外交コース」は総合政策研究科の教育課程と親和性が高いと思いますので、今後も履修者が続くことを期待しています。(J)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)
高度なコミュニケーション能力の獲得

(狙い内容)
語学力とともに、議論やディベート、プレゼンテーションの能力を向上させ、国際的な会議などで、自身の考えを的確かつ論理的に説明するための力を養う。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)
修了生全員が、自身の考えを的確かつ論理的に説明でき、必要な外国語学力を獲得している

2. 達成度評価

評価指標	・「ドーナツ・アワー」への大学院生参加率(平均:社会人除く) ・「リサーチ・コンソーシアム/リサーチ・フェア」における大学院生の発表率(平均)	評価尺度	A : 行動計画①②がともにAに達したレベル B : 行動計画①②がともにBに達したレベル C : 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル D : 行動計画の未着手
-------------	--	-------------	---

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		C 行動計画①はまだBに達していない	B 行動計画①②がともにBに達する	B	A	A	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	C	B	実績	C			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	行動計画①はまだBに達していない	行動計画①②がともにBに達した		行動計画①はBレベルを実現できなかった。			

【2017年度の進捗状況について】

行動計画①は前年度のBレベルの達成を実現できなかった。行動計画②については、過去の水準から少し減じたが、目標値のBレベルには到達した。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・計画どおりの進展が期待されます。(C)
- ・概ね現状維持といったところでしょうか。今後の増加が期待されます。(D)
- ・行動計画①の参加率減少の回復が期待されます。(E)
- ・概ね目標通りに進捗していると評価できます。(H)
- ・ドーナツ・アワーへの参加率、リサーチ・コンソーシアムでの発表率は、ともに昨年度に比べて減少しているようです。大学院の活性化に向けて今後の改善に期待しています。(J)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)
社会に資する研究等の実施

(狙い内容)
国際化に伴う異なる価値観の衝突、人口問題、環境問題など現代社会が抱える諸問題に対して、教育および研究を通して社会に貢献することを狙う。そのために必要となる知識と技術を、教員と学生はともに研鑽し、研究活動をさらに活性化することでその成果を社会に還元する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

教員および大学院生は、活発に研究活動を行い、学術論文や著書の執筆、学会発表、作品や企画などを通してその研究成果を社会に還元する。また、教育研究の質を維持しつつ、社会の各分野で指導的役割を果たしうる人材を育成するため、大学院定員の適正化を行う。

2. 達成度評価

評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費・新規採択件数および日本学術振興会特別研究員・新規採用者数 ・各種研究会(新任教員研究発表会など)の開催回数 ・大学院定員の適正化(定員削減) 	評価尺度	A : 行動計画①②がともにAに達したレベル B : 行動計画①②がともにBに達したレベル C : 行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D : 行動計画の未着手
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : 行動計画①②③がともにAに達したレベル B : 行動計画①②③がともにBに達したレベル C : 行動計画①②③が具体的検討に入ったレベル D : 行動計画の未着手

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 行動計画の未着手	C 行動計画①②がともにC 以上に達する	C	B	B	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	C	実績 C				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	行動計画の未着手	行動計画は具体的検 討に入り、行動計画② はAに達した。		行動計画は全てC レベルに達している			

【2017年度の進捗状況について】

行動計画①については科研費が3件から7件へと増加。②については、予定通り運用がなされ、Aのレベルを維持している。③については、大学当局の対応を待つ段階にとどまっている。
なお、課題として指摘された目標と行動計画の整合性について、行動計画の見直しにむけて検討に着手した。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 目標に向けて今後の進捗が期待されます。(A)
- ・ 計画どおりの進展が期待されます。(C)
- ・ 目標3と同様、概ね現状維持といったところでしょうか。今後の増加が期待されます。(D)
- ・ 概ね予定通りに進捗しています。各種研究会の開催回数を増やすことが望まれます。(E)
- ・ 目標と行動計画を整合性のとれたものとするため、次年度以降の行動計画の見直し・新たな行動計画の策定が期待されます。(F)
- ・ 目標に向けてのさらなる努力に期待します。(H)
- ・ 行動計画②について、今後も研究会が継続的に開催され研究活動が活性化することを期待します。(J)